

今年の夏、久しぶりにナーシングセミナーを開催しました。感想は、8ページをご覧ください。

看護学生のための情報誌

まろり 看護学生

2023年 10月11日号

まろり看護学生

発行/兵庫県民医療機関連合会 看護学生委員会 〒650-0047 神戸市中央区港島南町5-3-7
Tel:078-303-7351 Fax:078-303-7353 E-mail:kangakusei@hyogo-min.com

看護の現場は、学びがいっぱい！

ナーシングセミナー

8月から9月にかけて、兵庫民医連の各病院で看護学生のみなさんを対象にナーシングセミナー(看護学生の現場実習)を開催しました。感想の一部をご紹介します☆



東神戸病院

回復期リハビリ病棟

廊下ですれ違っても患者さんに声をかけ、患者さんの笑顔を見るとコミュニケーションが取れているんだなと感じました。スタッフ間も雰囲気がとてもよかったです。1年後自分も働けるよう頑張ろうと思いました。(大学4年生)

急性期病棟

患者さんのシーツ交換をさせてもらいました。実習とは違うことに戸惑いながら、直接患者さんに関わることができてよかったです。看護師になりたい意欲も湧いてきました。(専門学校1年生)



神戸協同病院

内科・整形病棟

術後など重症化のリスクの高い患者さんから、病状が安定してきているがまだ治療や療養が必要な患者さんまで、様々な状態の患者さんに対する看護を提供していると学びました。そのため、処置やケアも多く、様々な知識やケアの技術が求められると感じました。また、スタッフや看護師など多職種とのコミュニケーションも多く、フラットに意見を言い合えたり、分からないことは聞いたりできる環境だと感じました。声をかけ合いながら協力して日々の業務をされている様子を観ることができました。(大学4年生)

緩和ケア病棟

病棟内がゆったりしている印象でした。治療メインではないため、患者さんも穏やかに過ごすことができると感じました。また、意思疎通が困難な患者さんがいることも多く、コミュニケーションや日々の観察がとても重要だと感じました。ケアの見学もさせていただき、看護師さんの声かけが一つひとつの動作にあたり、対応がとても丁寧だと思いました。大変勉強になりました。(専門学校3年生)



尼崎医療生協病院

病院での演習は、学生対看護師1名のため、側でご指導をいただきながらの体験は初めてでした。細かな疑問でも質問をすれば丁寧に答えをいただき安心して行うことができました。とても楽しかったです。(専門学校1年生)

足浴、車椅子移乗だけではなく、体位変換も教えてもらいました。学校では先生に見てもらえる機会がそんなにないですが看護師さんに囲まれて教えてもらうことが出来ていい機会だったと思います。学校でも頑張ります。(専門学校1年生)



- 02・03 看護の現場より — 佐々木 暁子さん(尼崎医療生協病院)
- 04・05 1年目看護師の研修奮闘ダイアリー part.3
- 06 私の出会った患者さん — 若松 あゆみさん(神戸協同病院)
- 07 ほっとStation
- 08 ナーシングセミナー

看護の現場より

看護学生のみなさんに、私たちが日々看護を実践している現場での奮闘ぶりや、看護に対する熱い思いをシリーズで紹介します。

つなぐ、つながる、繋げて、繋ぐ 『で愛』からはじまる退院支援について

尼崎医療生協病院 地域連携相談センター
佐々木 暁子さん



はじめまして。尼崎医療生協病院地域連携相談センターで業務している看護師の佐々木です。

ここでは、地域連携の中で看護師がどんな仕事をしているのか紹介します。

まず地域連携相談センターの中で大切にしていることは、『つなぐ、つながる、繋げて、繋ぐ』です。何のこと?となるかと思いますがここでは、患者さんや、ご家族、地域の病院や診療所、在宅を支えている訪問看護師さんやケアマネジャーさん、地域包括支援センターの方や市役所の担当者さんと様々な方からの相談や連絡が入るところです。そこから一つひとつの情報を大切に拾いあげながら、そこで生活されている患者さんの療養生活を支援するために必要なピースを繋ぎ合わせて、支援する方々を繋いでいくことです。それは、つながった人々の“困った”にしっかり耳を傾けていくことの連続になります。

そこには、患者さんのみならず患者さんを支えている方々にとって私たちができる支援のあり方です。

■ 『で愛(出逢い)』の看護

出逢った患者さん、ご家族が何を大切にされてきたのか、どんな歴史(生活史)の中で頑張ってきたのか、対話を通して感じて想いに寄り添っていくことから始まります。家でみてあげたい、最



地域連携相談センターには、MSWが4名、退院支援看護師が3名、入院相談などのすべての窓口看護師が2名、事務の方が2名でそれぞれの役割と使命を持って勤務しています。



期は家で過ごしたい。ご家族の介護の限界など様々な状況はありますが、一番何が患者さんにとって良いことなのだろう、ご家族は何が一番困るのだろうと考えることから『で愛』の看護が始まります。『で愛』は、退院支援担当者だけではなく患者さん、ご家族をサポートする在宅チームのメンバーさんたちによりスタートします。はじめに療養生活の目標を共有して、それぞれが役割発揮できるようにカンファレンスをします。その中では当然、患者さん、ご家族の役割も確認します。みんなが出逢ってつながっていく、繋げていくことが退院支援担当者の役割になります。繋がった後は、患者さんが元気に過ごせているかなど、繋いだ評価も必要になってきます。

■ 忘れられない患者さん

私が出逢った患者さんの中で、尼崎医療生協病院と繋がった忘れられない患者さんがいます。

その方はがんのターミナル期の患者さんでした。身寄りもなく、生活保護を受けておられました。入院の時に出迎えに行くと、「僕を受け入れてくれてありがとう」と言われました。どんな思いでこれまで頑張ってきたんだろう、一人でここ(緩和ケア病棟)に来られるまでに様々なことを受

け止めてこられたんだろうと思うと、泣けてしまいました。その後まもなくその方は安心して旅立たれました。

他にも出逢ったご家族で毎年検診に来てくださる方がいらっしゃいます。その方はお父様を亡くされお一人になられましたが、元気な顔をのぞかせに来てくれます。「いつでもどんな時でも顔を見せてくださいね」とお伝えしています。

また、退院される時は患者さんだけでなくご家族にも「困ったことがあれば声をかけてくださいね」と必ずお願いしています。退院したら終わりではなくまた始まりです。

■ 地域の寄りどころに

他には入院や外来受診の窓口対応もしています。何とか、地域包括支援センターに繋がった患者さんの中には、患者になれない患者さん(受診ができない、受診を拒否している)、大病を患っているのにセルフネグレクトになっている方、経済的困窮など様々な人がいます。

これからもそのような繋がりを持たない、あるいは持つ方法を知らない方々が、相談に訪れてくる地域連携相談センターであり続けたいと思います。



東神戸病院の研修スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
現場教育	病棟オリエンテーション	W部屋 検査研修	日勤	夜勤W開始 (後半より)	患者訪問				ケーススタディの取り組み	発表		
集合研修	入職 看護部研修	1か月の 振り返り	BLS	ヘルパー体験 介護保険 人工呼吸器			半年のまとめ ケーススタディ の取り方	看護講座				1年のまとめ

夜勤がスタート

尼崎医療生協病院
地域包括ケア病棟 小林 亜彩妃

7月後半から準夜・深夜のオリエンテーションを3回ずつ終え、8月後半夜勤も立ちとなりました。夜勤を経験してみて、思っていたより病棟の廊下の電気がついていて明るいのがギャップでした。受け持ち患者さんも日勤帯は8~12名ですが、夜勤は20名前後と人数が多く、看護師は3名と少ないため協力が必要となります。私はまだまだ知識も技術も未熟なので先輩の力を必要とすることが沢山あります。困ったことは1人で悩まず相談することが、患者さんのためにも自分のためにもなると思います。

正直、自分なんかで大丈夫かなと不安に思う気持ちはありますが、経験を積み、自分の行動に自信が持てるようにしていきたいです。



日々学んでいます!

共立病院
地域包括ケア病棟 森本 美七海

入職して4か月ほど経過し、受け持ち人数が8人に増えました。まだまだ慣れないことも多く、時間がかかってバタバタとしてしまうのですが、先輩方の助けのもと、なんとか頑張っています。8人もの患者さんの人生に関わらせていただけることはとても嬉しく、充実した日々を送っています。勉強しないといけないこと、覚えることはまだまだたくさんあるので、これからも頑張っていきたいと思います。



臨場感あふれる 救急シミュレーション研修

「普段とちがう、何かおかしい」と気づき、いざという時に焦らず対応できるよう、毎年この時期に救急研修を行っています。シミュレーション研修は窒息・転倒・吐血の内容でロールプレイングをしました。

私は、急変時にまず何をすればいいのかわからずフリーズしてしまいました。最低限、呼吸・脈・意識の観察をすることが大切だと思いました。また、既往歴から患者に起こるリスクを考え、もしもの対応ができるように学習していきたいです。



神戸協同病院
回復期リハビリ病棟 高田 浩子



地域で過ごされている患者さんの生活を知る

東神戸病院では、8月に高齢者訪問をしています。以前、当病棟に入院された患者さんの自宅に訪問させていただきました。自宅でのように過ごされているか、ご本人とゆっくりお話を聞く貴重な機会でした! 奥様が大事にされていたものが沢山飾られており、それに囲まれて生活されている患者さんを見て、心温かい気持ちになりました。



東神戸病院
緩和ケア病棟 中川 理菜



私の出会った患者さん



神戸協同病院
内科病棟

若松 あゆみさん



【患者さん紹介】
Aさん/80歳代/女性/腎硬化症、末期腎不全、長期持続性心房細動
既往歴：慢性心不全、僧帽弁狭窄症のため人工弁置換術施行
家族構成：長男と同居。長女夫婦は隣の県に在住。キーパーソンは長女
介護保険：要支援1 デイサービスには妹さんも一緒に通われていた

Aさんは、低たんぱく血症の影響から溢水状態での入院を繰り返し、透析導入後に当院に転院され、外来維持透析となった患者さんです。低血圧による透析困難症で慎重な透析管理を行っていました。



私がAさんと出会ったのは、Aさんが透析導入4か月目の頃でした。当院での外来透析始めの頃は食欲があり、透析日から透析日の体重増加が大きくさらに透析管理が難しくなっていました。そこで、体重増加のコントロール目的で、透析から帰宅直後に自宅の体重計で体重を測定し、毎朝同じ条件で体重測定してもらうことで、増加の目安を意識づけていくように指導を行いました。Aさんは指導されたことを理解され、「毎日測ることで意識できています。今まで食べ過ぎていましたね」との発言があり、体重増加のコントロールは徐々に安定していきました。



ある日、自宅で一過性の意識消失から転倒し、腰椎圧迫骨折で当院に緊急入院となりました。

入院してからは腰痛も強く、しばらくは食欲がなくなつた状況が続きましたが、鎮痛剤の変更で腰痛や食欲低下も改善することができ、少しずつ以前のADLに近づいてきました。

退院の調整では、入院前の生活状況や思いについての情報を整理しました。Aさんから「長男は忙しくてね。出張も多い。男の子だし独身だから、家のことはまるっきりなくて。家のことをしてあげなくちゃって思うのよね。私は子どもの頃から下の妹の面倒を見て、家のことやってきたから慣れっこよ」と家族の一員として支えていくことが生き



がいになっているように感じられました。腰や心臓に負担をかけないような生活を行える環境であるのか、Aさんは今後の生活面でどのように気をつけようと思っているのか、今の思いについて聞き取りを行いました。Aさんは「なってしまったものは仕方ないですね。あの時下を向いている時間が長かったから、今度からはご飯は座って準備します。重たいものは持たないように、お買い物はコープさん使ったり、週末に長男が連れて行ってくれるみたい。今までのように掃除はできないけど、これも仕方ないですね。モップ使って掃除します。拭き掃除は長男にお願いしようかな」と生活の変容に対して具体的に前向きな発言が聞かれました。



退院の準備を進めていた一方で、胸水貯留の所見あり、適正体重を調整して胸水減少につとめていましたがなかなか消失せず、労作時に呼吸困難感があることでAさんの活気もなくなってきました。胸水試験穿刺実施し、一旦は胸水排液し呼吸困難感は軽減しましたが、再び胸水が貯留したためAさんは在宅酸素使用での自宅退院となりました。

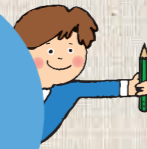
退院後の生活は、長女さんが中心でしたが、長女さん自身が疲れてしまわないように、退院前の訪問やカンファレンスでしっかり思いも聞きつつ、訪問看護や介護ヘルパー、配食サービスなど十分なサービスを組み合わせての退院となりました。

退院後のAさんに、現在の生活について思いを聞くと、「困っていることはないです。食事は長女が毎日来てくれて作ってくれています。掃除も(長女に)してもらってね。本当に至れり尽くせりです。妹も毎日顔を見せに来てくれてにぎやか。楽しいですよ」と笑顔で返答されていました。



今回、Aさんと家族との関わりを通して、入院前と退院時で病態やADLが変化している中で、Aさん・ご家族ともに自宅退院を希望されたため、多職種と連携をすることで退院につなげることができました。患者さんとご家族、それぞれの思いをしっかりと聞き、できるだけ両者の望む生活となるようチームで相談していくこと、患者さんだけでなく、患者さんを取り巻くすべての環境に目を向けていくことが重要であるとわかりました。

読者の声



そう言って頂けると嬉しいです。勉強も大変ですが今しかできない学生生活を全力で楽しんでくださいー☆

勉強はしんどいけど、看護師として活躍している方々を見ると、頑張ろうと勇気が出ました。(大学生 ちよ牧)

1年目の看護師の研修奮闘ダイアリー、楽しく読ませていただきました。自分も勉強頑張ろうと勇気が出ました。(大学生)

嬉しいコメントありがとうございます。今回号もぜひ読んでくださいねー☆

就職決まりました〜!!!いつも「きらり看学生」がくるのを楽しみにしています。(大学生 ぎん)

おめでとうございませう☆残りの学生生活も全力で楽しんでくださいねー!

今回号も1年目看護師の学びと成長した姿をぜひ読んでください。

1年目看護師の研修奮闘ダイアリー、大変参考になりそうに読んでいます。(大学生 おかゆ)

実習が全て終了したので、国試対策頑張ります!(大学生 ちーず)

お疲れ様でした。国試対策も大変ですが、コツコツと頑張ってくださいね。



8つのまちがい

【問題】上の絵と下の絵では8つのまちがいがあります!どこでしょう?

同封の返信ハガキに答えを書いて応募してください。応募いただいた正解者に抽選で図書カードをプレゼント!**11月10日(金)必着**。当選の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

←前回のまちがいがいさしの答え

編集後記

「○○の秋」とよく言いますが、みなさんはどんな秋を過ごされていますか?私は今年こそ食欲の秋ではなく、阪神タイガースやバスケットボール、ラグビー日本代表に刺激を受けて「運動の秋」になるように宣言しています(笑)。みなさん、今年はどんな秋にしたいですか?(O)